

---

# レザードとベリオン

ムー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

レザードとベリオン

### 【コード】

N0041K

### 【作者名】

ムー

### 【あらすじ】

レザードとベリオンのお話

精霊の森

「てめえの顔も見飽きたぜ!!」

(見飽きたのはお前の顔よこの半裸！

まったく・・・これで何回目よこの道とおるの)

大木の枝の上、エルフの少女。眠りを妨げられ、ご機嫌斜めだ。

ヴァルキリー達は炎呪の珠を修理するため、精霊の森に訪れたんだ  
そうな。

でも、なんかマップがループしてて大変なんだって。

「きゃああああ!!」

「うぐっ!!」

相手はマンドラゴラ、強力な全体攻撃のおかげで超うざかった。

(あらあら、相変わらずぼろぼろね。あ、二人死んだ)

「し、死にたくない・・・」

(あいつ、ほんとへたれね。さつきから死にすぎ)

きゅぴーん!! Gut's !!

「うおおおお!! わしはまだ死ねんのんじゃないああ!!」

(おお、あの王女様かわいい顔してガッツあるじゃない。へたれとは大違いね。)

「闇の深遠にて重苦にもがきつずめく雷よ、彼の者に驟雨のごとく打ちつけよ！」

グラビティブレス!!」

ずずーん

「これは神罰じゃー!!」

(やるじゃないあの王女様)

浄化完了

「僕は、役に立っているのだろうか・・・」

(大丈夫、全く役にたつてないわよへたれ君www  
にしても、何であんなに苦労してまで戦うのかしら?)

「なあ、ヴァルキリー。何でそんなに戦いたがるんだ?こいつら、うぜえくせにろくな経験値もってねえぞ。」

(そうよそうよ)

「私にもわからぬ。敵が目に入ると勝手に体が動いて剣を振り回し

ている自分がいるのだ」

敵がいたら倒さずにはいられないっしょ。凍らせるなんて邪道だ。

（あの人なに言ってるんだろ・・・あ、よかった、遠ざかっていくわ。よかった、これで静かになる）

エルフの幼女は静かになった森を楽しむのだった。

一方・・・

「レザード様、待ってください、歩くの早いですよ。」

「なんです、情けないですね。私はあなたをそんなふぬけに作った覚えはありませんよ」

レザードとそのホムンクルス。新しいホムンクルスの材料として、エルフの幼女を狩りに来たんだそうだ。

「そんなこといったって、荷物全部私に持たせるんですもん。重いんですけど・・・」

「うるさいですね。私に荷物を持てと？口答えすると消しますよ？」

「はいはい・・・私が悪かったですよ」

「ふむ、まあいいでしょう。罰として、私の塔の修理に加え、私の部屋の掃除を命じます。」

「ちゃんと出発する前にコタツのコンセントは抜いてきましたか？ ガス栓は閉めてきましたか？」

「忘れてきたならさらに罰を加えますが」

「やってきましたよ！まったく、そんなことくらい自分でやってくださいよ・・・」

「何を言うのです、私は偉大な研究で忙しいのです。私の貴重な時間を削るわけにはいきません」

「そんな事言うなら、ヴァルキリーに似せて作ったホムンクルスでちよめちよめするのはやめてください。」

「恥ずかしくないんですか？お医者さんと患者とか、先生と生徒とか・・・しかも毎回レザード様下の立場だし。Mですか？」

「あれは趣味です。だからいいですよ。口答えしましたね？消しますよ？」

「はいはい、わかったですよ・・・はあ」

「む、しずかに。いましたよ。エルフの少女です。」

「・・・レザード様、ほんとに作るんですか？幼いヴァルキリー。ちよめちよめするために作るなんて・・・」

「そうですよ。なにかいけませんか？」

「変態なうえにロリコンじゃないですか」

「何を言いますか。ぷりぷりな若い肌、汚れを知らない純真な心、あどけない天使のような顔。すばらしいじゃないですか。」

「それをロリコンというんですよ・・・」

「はっはっはっ、これだから下羨のものと笑いが止まらないのです。」

「幼女はひとつの芸術ですよ・・・ではいきますか。」

「汝、その諷意なる睡眠の中で、安息を得るだろう。永遠に儂く・・・」

「ラリホー！」

「れ、レザード様それはあんまりです」

「なにがです？眠らせるのは相手を傷つけずに捕獲する最良の手ですよ」

「いやそういつことじゃなくて・・・ゲーム違うし・・・」

「うるさいですね。消しますよ？」

「……ふう」

「……の・顔もみあ・ぜ!・ファイ・スト!」

ずずーん

「む、この声は半裸!ということとは近くに愛しのヴァルキュリアが  
!?!」

これはまさしく運命!ベリオン、行きますよ!!

……ところで、今日の私の髪型はきまっていますか?」

「……最高ですよ。」

「よろしい。では行きますよ!」

「……はあ……」

ズカーン!!

「く!」

電撃の直撃を受けるレナス





こうして、レナス一行は無事、精霊の森から出れましたとき。

ここで少ない経験値ながら戦い続けたもんだから、ラグナロクでは獅子奮迅の大活躍。

スルトも秒殺だったと。おめでとう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0041k/>

---

レザードとベリオン

2010年10月15日21時45分発行